



タイトル Title	表 1. 統一地方選挙前半（2019.4.7 投票）の11道府県知事選挙における漸進的教育無償化関連の公約一覧
著者 Author(s)	渡部, 昭男
掲載誌・巻号・ページ Citation	高等教育における経済的負担軽減及び修学支援に係る法・制度・行財政の日韓比較研究,:
刊行日 Issue date	2019-04
資源タイプ Resource Type	Research Paper / 研究報告書
版区分 Resource Version	author
権利 Rights	
DOI	
JaLDOI	
URL	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81011882

JSPP 科研費（課題番号 19K02864、研究代表者：渡部昭男、2019-21 予定）に係る「選挙公約」調査
 表 1. 統一地方選挙前半（2019.4.7 投票）の 11 道府県知事選挙における漸進的教育無償化関連の公約一覧

(2019.4.7 作成)

道府県	候補者氏名 *届出順 (所属等)	漸進的教育無償化・子育て・若者等に係る公約・マニフェスト等からの抜粋 *漸進的教育無償化に直接触れた事項を <u>色文字&下線処理</u> (出典：ウェブにアップされた各候補者の「公約」等／それがない場合は選挙管理委員会「選挙公報」で補足)
1 北海道	石川 知裕 (無新)	<p>「新・子育て支援パッケージ」で笑顔に／健やかな育ちを支える「新・子育て支援パッケージ」で子どもと共働き世代に笑顔を 北海道の未来を育む子どもと子育て支援は、道民・地域が力を合わせて取り組むことが不可欠です。人口減少を食い止めるためにも、子どもが健やかに育つこと、親がゆとりをもって育てることを応援します。市町村とともに幼い子ども（主に 0～3 歳）の育児と親の社会参加・居場所を確保するために、「ワークスペース型の子育て支援拠点」をつくるなど施設整備支援、ワンストップの相談支援体制の充実、ひとり親家庭の安定的な就労と生活支援、子育て世代の時間外勤務削減と保育所の質の確保・向上、子ども食堂など地域での支え合いと交流、子どものいじめ・不登校への伴走型支援などの施策を総合的に推進する「新・子育て支援パッケージ」（※5）により、成長に応じたそれぞれのステージで子どもと親の双方を応援します。<u>「北海道で働く若者応援奨学金返還支援制度」の創設、「道独自の給付型奨学金」の検討など就学支援策を整備します。</u>子育てが大変な生活環境の原因となっている長時間労働の是正を、道庁を先頭に「子育て世代の長時間労働 Stop 運動」として推進します。</p> <p>(出典：「北海道独立宣言 豊かな自治をめざして」http://tomohiro-ishikawa.jp/)</p>

<p>鈴木 直道 (無新)</p>	<p>②意欲に満ちた若者の活躍支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官民が融合して、各地の若者による能力向上のための研修の企画・提案、合宿などを支援し、地域リーダーの育成を図るとともに、業種・地域を越えたネットワークの構築を図り、課題解決に取り組む、「北海道ニューリーダーネットワーク（仮称）」を創設します。 ・高い意欲と将来性を有する若者の海外留学を支援し、将来の北海道を担うグローバル人材を育成するとともに、積極的に活動する若者の姿を全道に発信し、応援していただく方や留学生希望者の拡大を進めます。 ・ジョブカフェ・ジョブサロンを活用し、意欲を持った方々の就業を支援します。 ・体系的に職業教育を継続し、産業の担い手育成に努めます <p>⑤子どもたちの学力・体力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力・体力の地域別の重点指導方針などを策定し、その向上に向けた取り組みを進めます。 ・子どもたちのふるさとへの愛着を育み、健やかな成長を促す特色ある教育を展開します。 ・国際化の進展に向けて、語学力や多文化共生社会への対応力を培うカリキュラムの開発と実施に取り組みます。 ・いじめや体罰など、学校や地域で生じる問題で悩み苦しむ子どもや保護者への相談や助言などに積極的に取り組み、いじめの根絶を図ります。 ・若手教員や将来のスクールリーダーの育成、教員研修の充実と、ICTを活用した遠隔授業の推進など、教育力・学校力の向上を図ります。 ・複雑化・多様化する学校現場への対応や部活指導など、教師の長時間勤務に対する負担軽減に向けた働き方改革の実践と、地域人材スクールスタッフの充実を図ります。 ・<u>授業料減免措置の拡充や給付型奨学金の増額など、低所得世帯の子どもに対する高等教育の無償化に取り組みます。</u> ・特別支援学校の施設の拡充、近隣の学校に通学できる体制整備、就職支援体制の強化など特別支援教育の充実を図り、市町村や関係団体と連携し、地域活動への参加や就職に向けて支援します。 ・職業教育の中核的機関である専修学校・各種学校をはじめ、多様化する国民のニーズに応じた特色ある教育に重要な役割を果たしている私学教育の振興を図ります。 <p>⑥北海道の食育・木育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良質な食事を通じた健康な身体づくりや食べ物を大切にする心を育む「食育」、自然の木がもつ暖かみとふれあう「木育」を通じて、子どもたちにふるさと北海道の魅力を伝えます。 ・地元産品を大切にするライフスタイルの魅力発信と定着を進めることで、地産地消を推進し、地域経済の活性化を図ります。 <p>⑧少子高齢化対策の強化</p>
-----------------------	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに取り組む世代を社会全体でサポートする体制を強化し、希望する方が2人目、3人目と子どもを安心して育てたいと思える環境づくりを進めます。 ・さまざまな悩みを持つ子育て世代をサポートするため、仲間と出会える地域子育て支援拠点の整備を進めます。 ・地域の子どもたちに遊び・学び・食事などを提供し、高齢者をはじめ地域の多世代が支え合う仕組みづくりを進めます。 ・地域包括ケアの推進に向けて、介護人材の育成確保や介護に関する先進技術の導入を進めるとともに、計画的な施設整備など高齢者福祉の充実に取り組みます。 ・高齢者の方々が健康で元気に暮らせるよう、再生医療の研究促進と早期実用化、リハビリテーション機能の充実や統合医療の研究推進に取り組みます。 <p>⑨結婚支援と安心して産み育てられる子育て支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚を望む方々を応援するため、結婚支援情報の提供や地域のアイデアを生かした活動を支援します。 ・産前・産後の切れ目ない支援体制の整備や経済的負担の軽減、待機児童ゼロの実現に向けた保育施設の拡充と保育士の処遇改善など、安心して産み育てることができる環境を整備します。 ・保育士や幼稚園教諭の研修を行う拠点を整備し、幼児期教育の充実と質の向上を図ります <p>(出典：「活力あふれる北海道の未来へ全力！」 http://www.naomichi-suzuki.com/policy/)</p>
2 神 奈 川	黒岩 祐治 (無現)	<p>2. 医療・福祉・こども・共生政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知率 50%へ ・津久井やまゆり園事件を乗り越え福祉先進県 No.1 へ ・貧困、虐待など支援を必要とするこどもを守る体制作り <p>(出典：「3期目の新たな挑戦」 https://kuroiwa.com/cms/wp-content/uploads/2019/03/kuroiwa_seisaku.pdf)</p>

	<p>岸 牧子 (無新)</p>	<p>ReBorn I 子どもたちのために</p> <p>完全給食実施率、一人当たりの教育費予算や生徒一人当たりの教員数が全国最低クラスなど、改善が早急に求められています。子どもたちのための予算を増やし、市町村と連携し、子どもの権利を守る県政に ReBorn します。</p> <p>(1)県として、小児医療費助成制度の対象を 18 歳まで拡大し、医療費の無料化をめざします。</p> <p>(2)待機児解消をめざし、保育所整備 3 か年計画を作成・推進します。</p> <p>(3)市町村と協力し、県内すべての中学校で完全給食を実現します。</p> <p>(4)児童虐待根絶のため、県立児童相談所の体制を抜本的に拡充します。</p> <p><u>(5)保育・幼児教育の無償化をはじめ、教育の無償化早期実施を国に働きかけるとともに、国の措置に加え県独自の上乗せ措置を行います。</u></p> <p>(6) 新生児に「赤ちゃんボックス」をプレゼントします。</p> <p>(7)学童保育を市町村と連携し小学校地域ごとに設置します。また、県単独補助金を創設し、父母負担の軽減、指導員の処遇改善を図ります。</p> <p>(8)国に 35 人以下学級の計画的実現を要求するとともに、県独自に、早期に実現します。また、教員、カウンセラーなどを増員し、教育の充実を図ります。</p> <p>(9)県立高校の適正規模（1 学年 6～8 学級）を維持し、県立高校の削減計画を見直します。</p> <p>(10)県立特別支援学校の適正規模化をはかるため増設を急ぎ、人権侵害ともなっている過大規模校を早急に解消します。また、スクールバスを増車します。</p> <p>(11)県立学校の学校教育費の私費負担のゼロをめざし、早急に半減します。公立小中学校についても市町村に働きかけて保護者負担の軽減をめざします。</p> <p>(12)私立学校の全国最低レベルの経常費補助と学費補助を充実・強化し、経済的理由で進学できないことがない様にします。私立高校の学費補助を東京並みに拡充します。</p> <p>(出典：『誰一人とりのこさない』神奈川へ、ReBorn」 http://www.kishi-makiko.jp/07-2)</p>
<p>3 福 井</p>	<p>金元 幸枝 (共新)</p>	<p>・高校卒業までの医療費の窓口無料化</p> <p><u>・学校給食無料化</u></p> <p>(出典：福井県選挙管理委員会「選挙公報」 http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/senkan/31kouhosha-jyohou_d/fil/31tizikouhou.pdf)</p>

<p>杉本 達治 (無新)</p>	<p>政策1 ひとがワクワク</p> <p>04 結婚・子育ての希望が叶う社会をつくれます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場や地域で自然な出会いを応援 ・<u>幼児教育・保育無償化、高校授業料実質無償化の拡充など</u>子育て先進県ふくいをレベルアップ ・市町の特色ある子育て施策や「子育て世代包括支援センター」の設置・運営を支援 ・放課後児童クラブの十分な確保と運営体制の支援強化 <p>05 「学力・体力日本一」をふくいを担う人づくりに活かします</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生が子どもと向き合う時間を確保し、子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育を推進 ・社会に学ぶ「地域インターンシップ」と地元社会人による「ようこそ先輩」授業の拡大 ・特色ある職業系高校の魅力をさらに向上 ・福井に居ながら海外を経験、優秀な外国人留学生を受け入れ福井で活躍 ・学校、地域、行政が一体となり不登校対策を強化 ・子どもたちが集中して学べるよう学校施設の整備を強化 <p>(出典:「政策集 ver3.0」 https://sugimoto-tatsuji.net/wp/wp-content/themes/sugimoto/pdf/policy-collection-vol02_4.pdf)</p>
<p>西川 一誠 (無現)</p>	<p>1 心豊かに個性と能力をのびます。愛情いっぱいの「ていねいな教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「福井型18年教育」の前進 ○個性と可能性を伸ばす教育 ・「学力・体力日本一」を堅持。勉強や運動などが苦手な子どもたちに丁寧に指導 ・一人ひとりの「最適化された学び」。中学校の習熟度別学習やA I等の活用 ・小中校生向けのプログラミング教育、福井を担う次世代産業人材を育成 ・福井の先人100人、福井の偉人オーラルヒストリーなど、ふるさと教育を充実 ○みんなが学びやすい学校に ・発達障がい早期発見・早期支援、通級・特別支援学級や特別支援学校の学習充実 ・地域と連携し、いじめ防止、不登校対策、外国籍児童生徒への学習・生活支援 ○高校の学力向上 ・大学入試改革に向け、授業力向上や受験対策に万全 ・外国語教育や国際交流に重点、カリキュラムに海外留学を位置付け ・高校生が地域振興の一翼、市町や産業界と地域課題解決に向けた探求的学び ◆教育・学習環境の向上 ○<u>高校生を持つ家庭の負担軽減 ・公立高校に加えて、私立高校も授業料を無償化</u> ○教員の多忙化を解消 ・先生が子どもと向き合う時間を増加、授業外業務や部活動に多様な外部人材を活用 ○学校施設の環境整備 ・学校施設の長寿命化改修とトイレ改修、エレベーター設置、体育館の酷暑対策

◆県立大学の地域貢献をさらに

- 新学部・新学科の創設 ・農業、水産業、地域経済、恐竜など、福井の良さを伸ばす教育・研究体制を拡充
- 「学び直し」教育の充実 ・社会人のリカレント教育など、専門・実践教育への多様なニーズに対応 ・福井の自然環境や歴史文化、経済産業などを総合的に研究する「福井学」を推進

3 希望を叶える結婚・子育て、U・Iターン

◆日本一の「結婚・子育て応援社会」

- 福井発祥「めいわくありがた縁結び」を新展開 ・縁結びさんや結婚相談員の活動を応援する総合拠点「縁結び交流センター」開設 ・全国初の自然な出会い創出プロジェクト。企業横断の社員交流やサークル活動促進
- みんなの手で子育て応援 ・誕生から高校3年まで医療費を無料化 ・延長保育、病児・病後保育など働く世代の安心子育て充実 ・産後ケアなど、核家族の子育てや第1子からの子育ての支援強化 ・3人っ子応援プロジェクトを拡充、「在宅育児」も経済サポート ・「父親の1week 育児休暇」運動を展開、日本一のカジメン・イクメン県に

◆福井U・Iターン政策のスケールアップ

- “攻め”の移住政策を企業・市町とともに全面展開 ・人材スカウト体制を整え、福井Uターンセンターのマッチング機能を強化。関西・中京からの社会人移住支援パワーアップ ・「日本一仕事がある日本一の田舎」発信プロジェクト。福井の多様な働き方と豊かな暮らし、元気な企業をあらゆるツールで発信 ・「家庭をもったら福井が一番」。結婚&移住ポジティブキャンペーンを展開 ・職・住居・定着サポートの3点セット「市町定住パッケージ」開発を後押し
- 高校から大学まで新卒人材確保の総合戦略 ・県内高校・専門学校・大学と企業、行政一体の「地元就職拡大プロジェクト」 ・「技術と人材の産学官連携」。理工系研究室を対象に企業をもっと知る機会創出 ・県外大学との就職支援協定を大幅増。企業とともに学内説明会を充実 ・最も出費が大きいUターン就活交通費への助成拡充、保護者や学生の負担軽減 ・就活の早期化・通年化に対応した新しい就職支援

(出典：「西川元気ビジョン2019」 <https://www.nishikawa-issei.com/author/wp-content/uploads/2019/03/2019vision-2.pdf>)

<p>4 三 重</p>	<p>鈴木加奈子 (無新)</p>	<p>2、若者が未来に希望を持ち、安心して子育てできる三重県を実現します</p> <p>【若者の未来を守る】</p> <p><u>・大学の学費負担軽減のため給付型の奨学金制度を創設します。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が未来に希望を持てるよう、「正社員が当たり前」の社会にむけて、県が率先して役割を果たします。 ・三重県の最低賃金を、ただちに時給 1,000 円以上にし、1,500 円をめざします。その実現のために、中小企業、零細企業への補助制度を設け、公的機関での非正規雇用の正規化などの改善をすすめます。 ・サービス残業の規制など、ブラック企業をなくすために力をつくします。 ・若者定住をすすめるために、公共住宅の提供、家賃補助をすすめます。 ・外国人労働者への差別待遇をやめさせ、労働環境の改善をすすめます。 <p>【安心の子育てを支える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園待機児童ゼロへ、認可保育園の増設をすすめます。 ・福祉医療の子ども医療費は中学卒業までの窓口無料化を実施します。 ・国民健康保険の子どもの均等割を廃止します。 ・保育園職員の待遇改善を行います。 ・保育園・幼稚園の完全無料化へ、年齢の拡充、給食費等の無料化をめざします。 <p>【子どもの貧困なくし健やかな成長を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困をなくすため、子ども食堂、学習支援に補助制度を設けます。 ・小中学校の30人学級を完全実施します。25人下限設定をなくします。 ・教職員を増やし、子どもと向き合える環境を整えます。 ・中学校給食の実施、学校給食費の無償化、エアコンの整備をすすめます。 ・学校は地域の文化、防災の拠点です。安易な統廃合は中止し、老朽校舎の改築・改修をすすめます。 ・子どもへの虐待を防止するために、対策と体制を強化します。 ・学童保育指導員の待遇改善を行います。 ・一人親家庭への生活応援に所得保障を実施します。 ・児童虐待防止へ、職員の体制を充実させます。 <p>(出典：「県民本位のやさしい三重県政をつくる会 基本政策」 http://yasashii-mie.jp/2019-0330-201635.html)</p>
----------------------	-----------------------	--

	鈴木 英敬 (無現)	<p>○「命」「安全・安心」を大切にする三重</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国に先駆けた児童虐待対策を更に充実（児童相談所新設、AI活用等で一時保護の迅速化・適正化（全国初）等） ・支援が必要な子ども達のために（私立高校授業料無償化の先行実施、子どもの貧困や社会養育推進の計画策定、医療的ケア児支援等） <p>○「未来への希望」「挑戦」を大切にする三重</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望がかなう少子化対策と「保育の質の向上」「待機児童ゼロ」「放課後児童クラブ待機者ゼロ」を目指して（「子ども基金」を活用した保育支援員導入等による保育士確保、施設整備支援等） ・若者の県内定着（奨学金制度充実、若者・子育て世代に魅力ある働く場づくり等） ・教育・人づくり（「三重県教育施策大綱」改定、幼児教育充実、運動部活動指導員やスクールサポートスタッフ配置、学力・体力向上、県立学校トイレ洋式化等） <p>（出典：「協創・新時代」http://eikei.jp/nextstep/）</p>
5 大 阪	小西 慎一 (無新)	<p>1 子どもたちの未来が輝く大阪の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親から子どもへの貧困の連鎖を断ち切る施策の推進 ・子どもの虐待防止のための子ども家庭センターの機能強化 ・待機児童の解消 <p>（出典：「成長をわかち合える大阪」http://www.konishi-tadakazu.jp/）</p> <p>～～～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て・教育支援の新展開！ <p>保護者負担の軽減、子ども食堂、貧困の連鎖を断ち切る、不登校</p> <p>（出典：大阪府選挙管理委員会「選挙公報」http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/35613/00319705/H31tijikouhou.pdf）</p>
	吉村 洋文 (大維新)	<p>7. 現役世代活性化政策</p> <p>次世代を育成し高齢世代を支える現役世代が元気でなくては、社会を維持することはできません。大阪維新の会は一貫して、現役世代活性化に取り組んできましたが、その方針は決してぶれません。</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）市町村独自事業の補助制度 （2）女性の就業支援 （3）子どもワンコイン医療の18歳までの拡張支援

(4) 企業内保育所・庁舎内保育所の地域開放

(5) 塾代助成バウチャーの拡大検討

8. 教育のさらなる強化（広域）

大阪の未来を担う次世代の教育は、大阪の礎です。学力低下傾向に歯止めをかけたこれまでの実績の上に、さらなる強化策を展開します。

- (1) ICT 教育の徹底的導入
- (2) 教育を受ける機会の平等
- (3) 副校長の設置
- (4) 教育に民意を反映させる体制を整備
- (5) 特別支援教育の充実

11. 福祉医療の充実

真に支援を必要としている人々に必要なサービスを提供する理念の下に、健康・医療・福祉施策全般の再構築を図り、効果的な公共サービスを創設します。

- (1) 保険制度の広域化
- (2) 大阪版ネウボラの検討
- (3) 療育制度の充実
- (4) 虐待予防ネットワークの充実
- (5) 全国最高水準の妊婦健診費用助成・検診項目拡充
- (6) 基幹病院と大学・企業を結ぶコンソーシアム創設
- (7) 医療圏の再編・南部の医療体制を強化
- (8) 世界最先端医療の街

12. 市民サービスの充実（大阪市）

増税や借金に頼ることなく、「改革」と「成長」により、「財源」を生み出し「市民サービスの向上」を実現する。これから先の少子高齢化時代。都市間競争の時代。今、ここで改革の手を止めてはいけない。公務員天国だったかつての大阪。税金を湯水のごとく無駄に使ってきたかつての大阪。悪しき時代の 大阪に戻さないために、継続した改革と都市の成長を実現し、必ずや、さらなる市民サービスの向上を実現します。

教育

- (1) 中学校給食の改善

- (2) 学校図書館の充実
- (3) ICT 教育の拡充
- (4) 特別支援教育の充実
- (5) 日本最大級の公立大学整備
- (6) 小中一貫校の整備促進
- (7) 塾代助成バウチャーの拡大

子育て

- (1) こども医療費助成の18歳拡充
- (2) 妊婦、出産支援の拡充
- (3) 待機児童ゼロへ
- (4) 多子世帯への給食無償化等、負担軽減
- (5) 子どもの経済困窮対策チームの設立

医療・福祉

- (1) 待機高齢者ゼロへ（特養の整備促進等）
- (2) 一人暮らし高齢者支援
- (3) 府市共同住吉母子医療センターの早期開設
- (4) 生活保護受給の適正化（不正受給対策強化）

住民生活

- (1) 子供の通学路等安全の為の防犯カメラの増設
- (2) 高齢者に優しいバリアフリー対策の推進
- (4) 放置自転車対策

住民自治の拡充

- (1) タウンミーティングの開催
- (2) 区政会議の充実
- (3) 公募区長制度の継続
- (4) 地域の自立支援

〔出典〕「もっと大阪を前へすすめたい！！」<http://yoshimura-hirofumi.com/manifesto>

6 奈良 良	荒井 正吾 (無現)	11 教育振興 ここまで良くなった <u>・私立学校授業料免除</u> (出典：「愚直政策集」 https://araishougo.jp/pdf/あらい正吾正政策集.pdf)
	川島 実 (無新)	・保育所、学童保育の充実、「働き盛りは子育て盛り」 ・子どもの居場所づくり (出典：奈良県選挙管理委員会「選挙公報」 http://www.pref.nara.jp/secure/135907/kouhou.pdf)
	前川 清成 (無新)	○子育て・教育環境日本一 今、塾や予備校、私立の中・高校、大学、専門学校の学費等、教育と子育てにとってもおカネがかかります。その一方で、「格差」が拡大し、「ひとり親世帯」の増加もあって、今、子どもたちの6人に1人が貧困に苦しんでいます。しかし、「親のサイフの重さ」で、子どもたちの未来に差があってはなりません。そこで、「子育て・教育環境日本一」を目指して、 【県立高校の教育力】 県立高校をバージョンアップして、受験勉強を塾や予備校に頼らなくて済むように、県立高校の教育力を向上させます。県立高校でも私立高校に負けない教育を行います。市町村と連携して、公立小学校、中学校の教育力も高めます。県立青翔中・高校のような県立の中高一貫校もさらに必要です。 <u>【返済しなくていい奨学金】</u> <u>おカネはなくても一所懸命勉強したい学生のために奈良県独自の「返済しなくていい奨学金」(給付型奨学金)を創設し、充実させます。</u> <u>【塾、文化・スポーツ教室への補助】</u> <u>子どもたちの学力、個性、才能を伸ばすために、学習塾、文化・スポーツ教室等、学校外教育にかかる費用を補助・支援します。</u> 【県立高校再編】 奈良高校のために平城高校から校舎を取り上げてしまうのはあんまりです。奈良高校の生徒たちを長い間、耐震基準を満たさない校舎で学ばせていたことも大問題です。県立高校再編案を白紙撤回し、県立高校の役割と各校の役割分担をもう1度、0から議論しましょう。 【全ての子どもたちに「居場所」】

		<p>子どもたちにも「居場所」が大切です。相談し、頼れる大人が必要です。そこで、県下各地の学童保育（放課後児童クラブ）や「こども食堂」を支援します。</p> <p>【妊産婦、乳児の健康検診無償化と不妊治療への助成】</p> <p>健やかな妊娠、出産、成長を社会全体で支えるために、妊産婦、乳児の健康検診の本人負担を0円にするとともに、不妊治療のための費用を助成します。</p> <p>【児童相談所の機能強化】</p> <p>いじめや虐待で尊い命が失われることがないように(1)児童福祉司、児童心理司をはじめ「プロ」の職員を増員します。一般行政職員からの異動を減らします。また(2)常勤の弁護士を配置し、(3)医師、歯科医師の関与を強化し、(4)警察と連携・連絡して、子どもたちを守ります。</p> <p>(出典：「政策」 https://maekawa-kiyoshige.jp/policy/)</p>
7 鳥 取	平井 伸治 (無現)	<p>「ひと新時代」へチャレンジ！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の一步先行く子育て支援に乗り出し児童相談所強化など虐待防止も ・学力・体力を真に育む学校改革と子どもの未来を拓く特色ある高校づくり ・ふるさと教育推進や出身学生ネットワークで鳥取を愛する若い力育成 ・国際化・AI化等に対応した英語・プログラミング教育と大学入試改革対策 ・<u>奨学金拡充などで介護・保育・薬剤師を含め医療・福祉人材を育成・充実</u> <p>「暮らし新時代」へチャレンジ！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス人材移住支援や大学連携協定倍増など4年で移住者1万人 ・「関係案内所」開設でボランティア・交流・居住体験など県外からの交流促進 ・若者の県内就職と出会い・結婚・子育てを応援 ・こども食堂・就労支援・アウトリーチなど生活困難世帯を支える絆社会の構築 ・高校遠隔通学助成創設やビジネス支援など中山間地の活性化 <p>(出典：平井伸治 HP「公約」 http://hiraishinji.com/manifesto/manifesto01.html)</p>

	福住 英行 (無新)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>県も就学援助に支援します。</u> ・<u>給食費も含めた保育料を第一子から無償にします。</u> ・保育士の処遇改善のため県も改善につとめます。 ・学童保育の指導員確保のため、県独自の改善をはかります。 ・<u>学校給食費の無償化のため財政支援します。</u> ・<u>高校通学費に県も支援します。</u> ・<u>高校授業料を無償化します。</u> ・<u>県独自の給付性奨学金制度を創設します。</u> <p>(出典：憲法をいかした、住民自治による民主県政をつくる会（民主県政の会）知事選基本政策第一次 http://tottoritsukuru.xyz/kihonseisaku%20No.1.pdf)</p>
	井上 洋 (無新)	鳥取県を「人に優しい共生社会に」したいと思います。 (出典：鳥取県選挙管理委員会「選挙公報」 https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1153948/chiji_kouhou.pdf)
8 島 根	丸山 達也 (無新)	島根子育てトータル支援プラン 結婚支援、妊婦ケア・産後ケアの充実、 <u>若い子育て世帯の負担軽減策の拡充</u> 、保育所・学童保育の待機・潜在的待機解消、保育人材を確保する為、保育士・幼稚園教諭に対する労働環境改善・処遇見直しを、県予算による支援で後押しします。／自治体間の子供医療費の負担格差を是正すよう働きかけると共に、県予算による支援を行います。／最低でも島根県すべての自治体で暮らす小学生までが負担する医療費を無料とします。 教育 次世代の島根を担う子供達の生きる力を育むために、教育を充実します。／ふるさと島根への誇りを培う「ふるさと教育」を推進します。 (出典：丸山たつや HP「私の政策」 https://www.maruyama-tatsuya.com/manifest/)

	<p>大庭 誠司 (無新)</p>	<p>「子育て環境」日本一への挑戦。 1 妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援／2 仕事と子育てを両立できる環境の整備／3 子育て福祉の充実 4 待機児童の解消と幼児教育の充実／5 結婚支援</p> <p>「教育環境」日本一への挑戦。 1 ふるさと教育の推進／2 教育の魅力化の推進／3 学力の向上／4 島根の特色ある教育環境の整備／5 スポーツの振興 (出典：大庭せいじ政策集 https://ohba-seiji.jp/wp-content/themes/ohbaseiji/pdf/seisaku_v1.pdf)</p>
	<p>島田 二郎 (無新)</p>	<p>#03 子育てについて 0 歳から就学時までの一貫した環境整備として幼保一元化・待機児童 0 施策に取り組みます。／身近な地域で結婚し、島根で出産できる態勢づくりや、医師が少ない中山間地における産科・小児科との連携など、安心して子供を産み、育てる環境を作り上げます。／男性の育児休業等の育児参加など、企業が行う子育て支援の取り組みを支援します。／子育て版島根方式として、地域包括ケアシステムによって指導・助言・相談体制の充実を図ります。 (出典：しまだ二郎 HP「ビジョン」 https://www.shimada-jiro.jp/visions#87)</p>
	<p>山崎素子 (無新)</p>	<p>ここで暮らし生きる私たちの願いをかなえる島根を 誰もが希望する保育園に入れ、誰もが必要な介護を受けられる施策を行います。県の学力テストを中止し、子どもも先生も余裕をもって学べる学校にします。子どもの医療費は、県の助成で中学校卒業まで無料にし、国民健康保険料、介護保険料負担の軽減をはかります。政府や官僚が繰り出す施策をうのみにせず、県民の切なる願いをとことんかなえる県政に転換します。 (出典：山崎やすこ HP 政策リーフ http://yamasakiyasuko.private.coocan.jp/)</p>
<p>9 徳 島</p>	<p>天羽 篤 (共新)</p>	<p>[暮らし子育て支援] ・高校卒業まで医療費無料化 <u>・保育料、給食費の無料化</u> [若者に希望を] ・中小企業への支援強化で最低賃金を時給 1000 円以上に ・ブラック企業規制を推進 (出典：徳島県選挙管理委員会「選挙公報」 https://www.pref.tokushima.lg.jp/kenseijoho/senkyo/5027019/)</p>

<p>飯泉 嘉門 (無現)</p>	<p>○学び直しを支援！「リカレント教育」本格展開</p> <p>◆年齢不問！義務教育「学び直し」の機会を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な学びを支援！全国初「県立夜間中学」の開設 '21 までに <p>○次代へつなぐ！少子化対策の推進</p> <p>◆出逢い創出！結婚支援プロジェクトの加速</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家が対応！「個別相談会」の開催 '19 に ・職場仲間で登録！企業・団体間交流イベントの開催 '20 までに <p>◆不安解消！出産・育児におけるトータルサポートの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談強化！産前・産後「交流イベント」の開催 '19 に ・児童相談所の専門性向上！面接、マネジメント研修の強化 '19 に ・新概念の全県展開！福祉施設と連携したユニバーサルカフェの創設～子ども、高齢者、障がい者、みんなが集う「居場所づくり」～ '20 までに <p>○世界スタンダード！徳島未来教育の創造</p> <p>◆世界へ雄飛！グローバル教育の深化 ・交流加速！高校生による「国際貢献モデル」の本格展開 '20 までに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で英語体験！小学生「わくわくイングリッシュ・デイ（仮称）」の開催 '20 までに <p>◆未来のリーダー育成！新時代に対応した学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新展開！スーパーオンリーワン・ハイスクール事業 '20 までに ・特色ある中高6年間一体教育！「城ノ内中等教育学校」の開校 '20 までに ・進路選択の多様化！「普通科高校学区制」の見直し '21 までに <p>(出典：「とくしま『未知』知るべ戦略」http://www.e-comeon.net/src/sc1245/web81q2019837d83j838583t83f83x83g.pdf)</p>
-----------------------	---

	岸本 泰治 (無新)	I. 明日の徳島を創る ～子供達に確かな未来を！～ 今後10年間で起こりうる変化、2025年問題、AIによる産業構造の変化などに対処し、人口の転入超過する徳島県の実現を目指します。 2025年問題対策 健康寿命の延長 交流人口の増加 AIを活用した商工業・農業経営革新の支援 阿波踊りをはじめとする県民主役の文化・観光の振興 創造性豊かな子供を育む未来を見据えた教育の加速 (出典:「主張・政策」 https://www.taiji-kishimoto.net/policy/)
10 福岡	篠田 清 (無新)	[福祉と子育て応援] ・子どもの医療費を中学卒業まで無料に。 ・30人学級をめざし教員を増やします。 (出典:福岡県選挙管理委員会「選挙公報」 http://www.fukuoka40-senkan.com/407senkyo/kouhousha/pdf/2019_kouhou.pdf)

<p>武内 和久 (無新)</p>	<p>6 子どもの学力向上と学び続ける教育環境</p> <p>新時代の教育プログラムを導入し、子どもの学力向上と老若問わず学び続ける県民を増やす。新たな時代に対応した教育環境の整備や業種を超えた共同研修により、「人材づくり」で日本を牽引する福岡県を創る。</p> <p>具体的施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新時代に対応したプログラミング教育の整備 ・ICT 教育環境の整備 (WiFi 等) ・発展段階に応じた子どもの個別指導体制の強化 ・リカレント (学びなおし) 教育の推進 ・産官学共同連携によるグローバルイノベーション人材の育成 ・新規大学の設置を含む国際色豊かな人材育成の拠点施設の整備 <p>7 若者の可能性溢れるまちに</p> <p>若い力が躍動し、国内・国外問わず可能性を試せる福岡県を創る。若者「らしさ」を大切に「自分の夢」を叶えられる伴走型サポートにより、学び、人とつながり、支えを得ながら可能性をカタチにできる。また、地域を盛り上げていくヤル気のある若者と新たな感性や発想を求める地域とをつないで地域活性化を図る。</p> <p>具体的施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者に必要なノウハウ・人脈・知見を先輩が伴走型で支援するシステムの構築 ・県が保有する資産で事業に必要なものは若者へ低額で提供 ・海外の若者との交流・人脈構築支援プログラムの拡充 ・地域活性化に向けた若者と地域のマッチング強化 <p>(出典：「県政刷新への挑戦」 http://takeuchi-kazuhisa.com/)</p>
-----------------------	--

	小川 洋 (無現)	<p>[住み慣れた地域で「育てる」ことができる社会をつくります]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての小学校区に放課後児童クラブ等を設置 ・「あかい糸めーる」「出会い応援団体」の拡大による出会い提供 ・不妊治療の支援、産後ケアの充実 ・保育人材の確保、「子育て応援宣言企業」の拡大、正規雇用への転換と非正規雇用の処遇改善 ・子どもの貧困対策の充実、学力・体力に底上げ、向上 ・小学校での英語・プログラミング教育の推進、県立高校のエアコン設置と ICT 環境整備 <p>(出典：同上「選挙公報」)</p>
11 大 分	山下 魁 (共新)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学卒業まで医療費完全無料化 ・30 人学級の拡大 ・中小企業支援と一体で最低賃金時給 1000 円以上に <p>(出典：大分県選挙管理委員会「選挙公報」 https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2048246.pdf)</p>
	広瀬 勝貞 (無現)	<p>大分県版地方創生：人を大事にし、人を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育て満足度日本一」を目指し、子どもを生み育てやすい環境づくりを推進します。 ・希望する方には、出会いから結婚にいたる応援をします。 ・「健康寿命日本一」を目指し、若者から高齢者まで元気づくりを応援し、地域全体を取り込んだ地域包括ケアシステムを構築します。 ・障がい者が地域で安心して暮らせるよう支援を充実し、「障がい者雇用率日本一」を目指して就労を促進します。 ・女性の力が十分に発揮されるよう、活躍を支援します。 ・「教育県大分」を推進し、学力・体力を全国トップレベルにします。 <p>(出典)「加速前進！おおいた創生」http://hirosekatsusadakouenkai.com/seisaku.html)</p>
	首藤 淑子 (無新)	<p>・・・子供たちは本当に幸せなのか？一人でもお互いを心から信じ助け合い、真の友情が育める暖かい場所・・・</p> <p>(出典：同上「選挙公報」)</p>